

会長講演

心臓突然死からこころとからだ、アート、そして心の起源へ

笠貫 宏

東京女子医科大学名誉教授
早稲田大学理工学学術院教授



高校時代の“こころのモザイク説”が私の“こころ”の原型であるとすれば、大学時代 我が国の心身医学の生みの親である故池見酉次郎先生著の“心療内科”に感動したのが“こころとからだ”の問題への動機づけであり、1985年循環器 PSM(psychosomatic medicine)の会(代表日野原重明先生ら)の代表世話人になったことが“循環器疾患と心身医学”の研究の始まりでした。また池見酉次郎先生の教育講演“フロイドと全人的医療”で東洋医学と心身医学との関連を聞いて以来、私にとって“心身医学と伝統医学・自然療法”は大きなテーマとなりました。昨年、循環器心身医学会で私は“アートはそのヒトを感動させ本来持っている豊かな感性をよび起し、そのヒトのこころと体を活性化させること”と定義しました。現在こころの問題は脳科学研究の進歩により解明が進められ、“こころの起源”が改めて問い直されています。

本講演では私のこれまでの心臓突然死研究の軌跡を通して“こころとからだ、アート、そして心の起源”を考えてみたいと思います。